

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	東京医科歯科大学		
テーマ	病院経営支援に関する 領域	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	大学病院経営人材養成プラン		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学病院は医療の高度化によるコスト増大に対して診療報酬の抑制や補助金等の削減で経営的に困難な状況にあるところが多いが、大学病院内には経営に貢献できる人材が不足している。 ・本学は大学院大学として修士課程医療管理政策学コース(以下「MMAコース」という。)にて10年以上の教育実績があり、その成果をさらに大学病院経営人材養成に活かし得る可能性がある。 ・本学MMAコースの病院管理、経営管理に関する科目にて基礎知識を習得するとともに、様々な大学病院での事例検討(ケーススタディ)を加えることで、実践的な経営人材養成につなげることを目標とする。 ・本プログラムの履修期間は1年と設定するが、受講生が多忙である医師を対象としていることから、勤務の状況等に応じて、複数年をかけての受講も認める予定としている。 <p>〈事業の概要〉(400字以内厳守)</p> <p>本学MMAコースでは、過去多くの病院長、事務長、大学病院幹部等が医療管理を学び病院現場にその成果をフィードバックしている。その実績と卒業生のネットワークを活かして病院経営戦略能力を備える医療人材の養成に取り組む。特に、本学の立地を活かし、首都圏の大学病院と連携して、受講生の獲得とケーススタディの事例収集を行い、実践的で実効性の高い人材養成プログラムを開発する。<u>MMAコース科目から病院管理、財務管理、安全管理等に密接に関連する科目を選択して受講することができる</u>とともに、<u>首都圏大学病院等の幹部候補者を集め、幹部経験者にも参加いただき、相互の情報交換と大学病院経営のケーススタディを組み合わせることで、即戦力となる人材の養成</u>を目指す。</p>

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

本学の教育理念は、「幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成する」ことであり、この理念を踏まえて「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを目標としている。有能な病院経営者には幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観が求められるとともに、複雑な病院組織をまとめ、牽引するためには、自ら考え解決する創造性、指導力が必要であることは当然である。本プログラムにおけるこれらのテーマを実践するにあたり、本学の教育理念に基づいた人材育成を行う。

③新規性・独創性

【新規性】

本プログラムでは、経営人材養成に既存のMMAコースの科目を取り込み、医療政策学、会計学、情報管理学等の専門的な授業を受講することをカリキュラムに含めるとともに、多忙な病院関係の受講者を想定して平日夜間の講義やe-learningなどで受講機会を確保することを含めている点で、従来の経営人材養成プログラムにない特徴を持っている。

【独創性】

本プログラムでは、首都圏の大学病院の幹部候補生に加え、病院長経験者が参加して、情報交換やケーススタディを進める中で経営に必要な分析力、指導力を体系的に学び、身につけていくことを狙う点で独創性がある。

なお、ケーススタディは「実践病院経営ワークショップ」として開講し、病院経営の実績豊富な病院幹部経験者等がファシリテーター役を担って、病院幹部候補者である受講生が各自の病院事例を持ち寄り、認識されている諸課題を呈示して議論を深める。様々な課題について、それぞれの病院の固有の課題と共通性を持つ課題の整理を行い、病院固有の課題に関しては、他の受講者が第三者的な立場から意見を述べ、課題呈示者が解決への方策を考察する。一方、共通する課題に関しては、他の受講者の類似事例も併せて呈示し、問題点を整理の上、課題への対応手法を共有し、自身の病院での対応策を考察する。これらのワークショップをコース中間期の夏期に1回開催し、課題の認識を深めた上で、コース終期に再度ワークショップを実施し、本プログラムで学んだ成果を反映した形での課題解決策の検討を実施する。

ワークショップにおいて大学病院関係者が相互の課題を共通認識することで、新たな問題解決力を身につけることが期待される。

また、本プログラムの2年目以降は、グローバルスタンダードの経営人材養成も視野に入れ、JCI(Joint Commision International, 国際医療評価機構)等の受審にも対応できるよう、海外から講師を招聘し、大学経営に関する特別講義を予定する。わが国と欧米諸国では病院の運営形態等は異なっている点もあるが、この特別講義によって経営の基本的な理念、普遍的な考え方等を学習する機会が提供できると考えられる。さらに、本プログラム担当教員を海外の医療機関に派遣し、最新の情報に基づいたプログラム改編を継続的に実施する。

④達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：本プランの教育プログラムは平成29年度を準備期間として、カリキュラム作成、受講生公募等を実施し、平成30年4月の開講を目指す。
- ・教育プログラム・コースの実施数は本学で実施する「大学病院経営人材養成コース」1つとする。
- ・教育プログラム・コースの履修者数は、平成30年度は5名、平成31年度からは各8名程度を目標とする。
- ・受講者と大学病院・一般病院関係者を対象とする病院経営セミナーを30名から40名程度（首都圏13大学病院）の規模で平成30年度・平成31年度に1回ずつ開催する。「急性期病院経営改革のための人材養成のあり方（仮題）」をテーマに、本コースの教育プログラムの開発成果を幅広く共有するとともに、急性期病院の経営改革の実績豊富な講師を招き、病院経営改革の基本的なあり方を学ぶ機会を提供することを目的とする。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

大学病院での幹部候補者等を受講対象者とするこで、本プログラムを受講後、大学病院等の経営実務に参画することで、学習成果を活かす機会となることが期待される。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

本事業は、東京医科歯科大学1校で実施する。本学理事（医療・国際協力担当）の下に運営委員会を組織し、カリキュラム策定、年度毎の評価、プログラムの見直し等を検討する。また、各授業担当者、コーディネーター、実務担当者によるワーキンググループによりe-learningを含む教育ツール、ケーススタディのための教材の整備等を行う。

②事業の評価体制

本事業の評価は運営委員会での自己評価と外部評価で行う。
自己評価については、各年に1回以上予定の本事業の運営委員会開催時に、年次計画の進捗状況のまとめと確認を行う。また毎年の調書作成時に1年間の自己評価を行う。外部評価については、大学病院長（現役及び経験者）や病院事務部長を評価委員に加え、多角的に評価を行う。まず、中間評価を平成31年度に行い、次年度以降の計画に反映する。最終年度においては12月までに最終評価を行い、年度末に作成する最終報告書に内容を記載する。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

首都圏の大学病院が参加する特定機能病院連絡協議会等で本プログラムを周知し、参加を呼びかける。本プログラムの受講対象は大学病院だけではなく、特定機能病院等にも広げることを想定し、複数の大学病院及び特定機能病院から事前に受講者派遣の内諾を得ている。

(2) 事業の継続・普及に関する構想等

①事業の継続に関する構想

本プログラムにより養成される人材は、今後の大学病院経営の現場において必要不可欠であり、本プログラム終了後あるいは継続中に複数病院での研修コースとして組み入れられることが期待される。

②事業の普及に関する計画

大学病院のみならず都立病院、日本赤十字病院等の公的な医療機関の経営層候補者、一般病院の経営に拘わる人材を受講生に含めることで、多くの医療機関の経営改善に寄与することが期待される。

3. 事業実施計画

(1) 事業実施計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 9～10月 本プログラムを管理する運営委員会を組織し、開催する。 ② 9～12月 本コースのカリキュラムを策定する。 ③ 12～3月 首都圏の大学病院等に本プログラムの概要を広報し、受講者獲得につなげる。 ④ 2～3月 平成30年度の受講者を選ぶ。
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 本プログラムの平成30年度コースを開講する。 ② 8月 平成30年度第1回ワークショップを実施する。 ③ 8～12月 病院経営に関する海外調査を行う。 ④ 10～12月 公開経営セミナーを開催する。 ⑤ 12月 平成30年度第2回ワークショップを実施する。 ⑥ 2～3月 平成31年度の受講者を選ぶ。
31年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 本プログラムの平成31年度コースを開講する。 ② 8月 平成31年度第1回ワークショップを実施する。 ③ 8～12月 病院経営に関する海外調査を行う。 ④ 10～12月 国際経営セミナーの開催する。 ⑤ 12月 平成31年度第2回ワークショップを実施する。 ⑥ 2～3月 平成32年度の受講者を選ぶ。 ⑦ 3月 外部評価委員会を開催し、中間評価を行う。
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 本プログラムの平成32年度コースを開講する。 ② 8月 平成32年度第1回ワークショップを実施する。 ③ 12月 平成32年度第2回ワークショップを実施する。 ④ 2～3月 平成33年度の受講者を選ぶ。
33年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 本プログラムの平成33年度コースを開講する。 ② 8月 平成33年度第1回ワークショップを実施する。 ③ 12月 平成33年度第2回ワークショップを実施する。 ④ 1～3月 外部評価委員会を開催し、最終評価を行う。
34年度 [財政支援 終了後]	各大学病院等での研修プログラムの継続

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学						
教育プログラム・コース名	大学病院経営人材養成コース						
対象者	医師、医療従事者、事務職 等						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	大学病院における経営戦略の企画・立案、実行能力を備えた人材						
修了要件・履修方法	・本教育プログラム・コースで定める科目について、合計85時間以上を履修すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 実践病院経営ワークショップ（10時間）、「医療におけるリーダーシップ論講義」（15時間）、「医療機関リスク管理講義」（15時間）、「診療情報管理学講義」（15時間）</p> <p><選択科目> 医療提供政策論講義（15時間）、医療計画制度講義（15時間）、病院設計・病院設備講義（15時間）、衛生工学・汚染管理講義（15時間）、財務・会計講義（15時間）、医療のTQM（15時間）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>経営人材養成に既存の大学院医療管理政策学（MMA）コースの科目を取り込み、医療政策学、会計学、情報管理学等の専門的な授業を受講することをカリキュラムに含めるとともに、多忙な病院関係の受講者を想定してe-learningなどで受講機会を補足することを含めている点で、従来の経営人材養成プログラムにない特徴を持っている。また、首都圏の大学病院の幹部経験者や、幹部候補生等が参加して、情報交換やケーススタディを進める中で経営に必要な分析力、指導力を身につけていくことを狙う点で独創性がある。類似した環境の病院関係者が相互の課題を共通認識することで、新たな問題解決力を身につけることにつながることを期待される。</p>						
指導体制	<p>大学院MMAコースの担当教員の指導とともに、実務担当者等がケーススタディでのファシリテーター等を勤め、効果的な学習を促す。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	参加者の大学病院等での経営幹部としての活躍が期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	4	6	6	6	22
	医療従事者等	0	1	2	2	2	7
							0
							0
	計	0	5	8	8	8	29

※教育プログラム・コースごとに記入してください。

大学経営人材養成プラン

背景と必要性

- ・ 大学病院は経営的な苦境にあるが院内には経営に貢献できる人材が不足
- ・ 本学の大学院医療管理政策学（MMA）コースにおける教育実績を活かした大学病院経営人材養成の必要性



人材養成の目標

大学院科目での専門知識の習得と様々な大学病院での事例検討を組み合わせた、実践的な経営人材養成を目標

本プランの特徴

- ・ 大学院医療管理政策学（MMA）コースの経営学、病院管理学の習得
- ・ 首都圏の13大学病院と連携して、大学病院事例のケーススタディによる実践的な学習

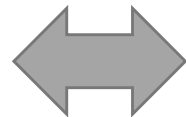
カリキュラムの特徴

- ・ 大学院医療管理政策学（MMA）コースの9科目から5科目以上を受講（内3科目は必修）
- ・ 授業は平日夜間に提供
- ・ e-learningによる補講の提供
- ・ ワークショップ（平日夜間または休日）による大学病院事例研究により相互交流と授業理解度を深める

M
M
A
履
修
科
目

- ・ 医療におけるリーダーシップ論
- ・ 医療機関リスク管理
- ・ 診療情報管理学
- ・ 医療提供政策論
- ・ 医療計画制度
- ・ 病院設計・病院設備
- ・ 衛生工学・汚染管理
- ・ 財務・会計
- ・ 医療のTQM

東京医科歯科大学
大学院MMA



受講
事例提供・
共有

首都圏
大学病院等

首都圏
大学病院等

首都圏
大学病院等